

突然ですが、この写真にある本は何でしょう？



これは昔の中学校の理科の教科書です。最近の教科書は、学年ごとに1冊もしくは上下巻の2冊と

⑱ 昔の教科書は面白い



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

昔の教科書を紹介します。

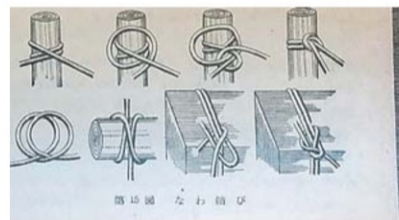
不思議な現象を見ることができ実験を行い、たくさん発見がある理科は、面白いものです。しかし、様々な時代で、子どもの理科離れや学習意欲の低下など理科教育の課題が指摘されてきました。そして、その様々な時代の背景を考慮しながら学習指導要領の改訂が行われ、教科書の内容も変化してきました。私はその教科書の移り変わりに興味があり、戦後以降の理科の教科書を調べると同

時に、小学校理科を中心に昔の教科書を趣味で集めています。

その中でも一番興味深いのは戦後すぐ(昭和20年代)に出版された教科書です。

特徴は、本のタイトルです。第2巻である写真の本のタイトルは「水にはどんな性質があるのか」というもので、水に関するあらゆる科学現象が載っています。その前の第1巻は「空気とはどんなものか」となっています。1冊丸々空気だけで学び、次は、水だけを

学んだことが日常生活に直結



学ぶ... というように1テーマで1冊という構成になっています。この写真は「機械を使うと仕事はどのようにはかどるか」

「ひもの力」という、紐だけにこだわった単元になります。写真は紐のたくさ

紹介した上で、「薪を切り付ける」「荷造り」「畳の縫い糸」「テニスのネット」など様々な使用方法などが記されています。全9巻の構成のすべての内容が普段の生活につながるものとなっており、「引力」「摩擦」「反作用」など6つの科学現象にも触れていきます。ちなみに、この次の単元は、「棒の力学」で、今度は棒だけにこだわる内容となっています。

このように1つのテーマから、



日常生活につながる問いが立てられ、科学現象に結び付けながら学ぶという内容になっています。帰宅途中の道や家でその現象を見た時に、学校の学びを思い出し、さらに自然と学びを深めるという構成が本当に面白いと感じています。



日々の育児や教育も同じ、子どもたちが学んだことが、自分たちの生活の何につながるのか？これを意識して伝えるだけで子どもたちは楽しく学ぶことができるのではないのでしょうか。